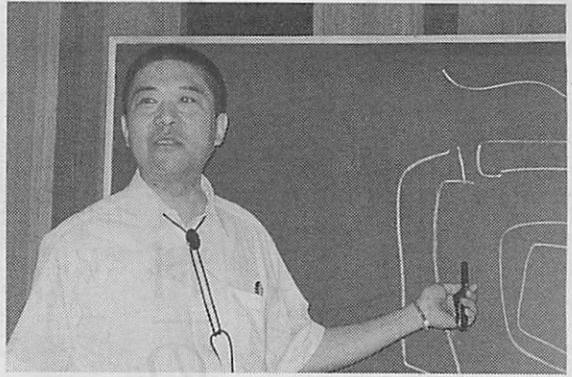


「学び合い」で学習も絆も深まる

特別支援教育でも力を発揮

課題を子どもたち同士で見定め、教え学び合う、西川純上越教育大学教授が提唱する「学び合い」

の紹介と同学習を生かした特別支援教育のあり方を話し合う「学び合い」活用セミナーが9月5日、東京・江東区の区教育センターで開かれた。同教授は学び合いの教室について「自由闊達な学びが生じ、分からない子を自然にサポートする状況が生まれてくる」などとその特性を説明。実践した埼玉県本庄市立仁手小学校は「他者に教えることの難しさを実感しながら、クラスの絆や自身の学習も深まった」などの成果を挙げ、参加者は同学習の意義に理解を深めた。学び合いは、少数の教師主導の指導より、多様な子どもたちへのより効果的な学習法として、参加者同士の議論の場も設置。特別支援教育への活用策を中心に議論し合った。



自身の子どもの時代も振り返り「学び合い」の意義を説明する西川教授

子どもたち同士が教え合う

西川教授が提唱する「学び合い」の学習は、認知心理学の「熟達者・初心者」研究の結果から見いだされたもの。同研究からは「熟達者は課題を早く、高い質で達成できる一方、それを説明できなくなる」(できるけれど、説明できない)という結果が出る

「学び合い」の研究。子ども同士が教え、学び合うクラスづくりと、それをサポートするプロデューサーとしての教師の役割を追究し続けている。

「この視点から「学び合い」を研究。子ども同士が教え、学び合うクラスづくりと、それをサポートするプロデューサーとしての教師の役割を追究し続けている。セミナーでは、そんな、教室における「学び合い」の実際を同教授が示し、「子どもたちはそれぞれ教室内を動き回って自由闊達に

学び合う。一見、何の秩序もないように見えるが、どの子ども課題に向き合い、分からない子へのサポートも自然に行われる」などの学習の特長を挙げ、「教師は全体の学習目標などを説明するだけで、子どもたちへの直接的な指示はほとんど出さない」など、教師の働きかけについても説明した。

悩みを乗り越えて成長

現場の事例としては、6年生の社会科で「学び合い」による授業を進めている埼玉県本庄市立仁手小学校の佐藤準一教師が経過と成果を報告。

「学び合い」による新しい単元をスタートさせるにあたり同教諭は、子どもたちに、単元の学習目標などを理解してもらおうと、教師用の指導書を提示。子ども向けの注釈を加えながら、子どもたちがこの単元で何を学ぶのかを考え、共通理解できるようにしようとして子どもたち

ネット検索など様々な方法を試みながらも仲間との話し合いなどから徐々に教科書を軸にした調査へ移行したなどとし、子どもたちが考え合う中で、必要な情報へのアクセス方法や情報選択能力がはぐくまれたことなどを挙げていた。

が学習目標を共有化する中で、その達成に向けた学習方法を子どもたちに自由に選ばせたい。これまで一斉授業しか経験していないこともあり、子どもたちは当初困惑ぎみだったが、目標に向けた試行錯誤が続く中で2カ月ほどで様々な学び合いが展開されるようになったという。

調査学習では、あるテーマを調べるために、図書館での資料調べやパソコン室での現場での成果を発表する本庄市立仁手小学校の佐藤教諭

大勢の子どものかわりが効果的

後半は、教員に保護者などを含めた参加者がグループをつくり、特別支援教育に「学び合い」がどのように生かせるかについても話し合った。

私立一貫校の教員からは、「学び合い」の意義はよく理解でき、進めようとしているが、子どもの障害を認めたがらなかったり、わが子の成績だけを優先する保護者の反発などもあり、学校全体で実施できない難しさがある」ことなどを報告。

同教授は「学び合い」こそ特別支援教育で大きく生かせるものと指摘、様々な特性を持った子どもたちの対応に、専門知識を有するけれども少数の教師であたるより、子どもたちが互いを理解し、教え、学び合う学習の方がより効果的なのではないか、などその意義を強調していた。

問い合わせは、子どもに学ぶ教師の会の秀島直哉さんに。Eメール「manahai.tokyo@yahoo.co.jp」

関係を築く教師学講座

9月と12月

親業訓練協会

教師と子どもが互いに尊重し合う関係を築くためのコミュニケーションを学ぶ、親業訓練協会による「教師学講座」が、9月と12月に東京・渋谷区の同協会で開催される。

講座が用意され、相手の問題解決への援助になる「能動的な聞き方」や、自分を相手に理解してもらうための「わたしメッセージ」などの技法を通じて、豊かなかわりについて理論と技術を理解することができる。指導には、同講座上級インストラクターの高野利雄講師が当たる。

基礎、一般、上級の各講座が用意され、相手の問題解決への援助になる「能動的な聞き方」や、自分を相手に理解してもらうための「わたしメッセージ」などの技法を通じて、豊かなかわりについて理論と技術を理解することができる。指導には、同講座上級インストラクターの高野利雄講師が当たる。

受講料は6万3000円(再受講料は4万7250円。同協会会員外は別途会費4200円が必要)。定員6~15人。問い合わせTEL090(2568)3788。Eメール「tsh@com.home.ne.jp」

道徳教育で研究大会

10月16日、東京

豊島区立さくら小で「自他を大切に、共に生きていこう」というテーマにした第43回関東地区小学校道徳教育研究大会・東京大会が、10月16日、東京・豊島区立さくら小で開かれる。

▽公開授業「わがままなきもち(1年1組)、人によるこんでもらう(3年1組)、相手を尊重する心(5年1組)など▽課題別分科会「指導計画の作成と活用、資料開発と活用、家庭・地域との連携など▽記念講演「道徳教育の先行実施、新しい半世紀への挑戦(永田繁雄東京学芸大学

